

第7日

令和6年9月10日（火）

午後2時10分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 皆さん、お疲れです。どうぞよろしくお願ひいたします。

8月、夏休みとなり、ニュージャージーやアラスカから、めいの子どもたちが帰ってきました。日本に着き、最初の言葉が何と、トイレがびっくりするほどきれい、座ってできると言いました。アメリカのトイレは汚くて、座ってはできないそうです。10歳の子どもが空港に着いたときの最初の言葉です。日本のトイレは、外国から来ると、びっくりするほどきれいなのでしょう。

ふと考えると、私たちも近頃まで、公衆トイレは汚かったなという思いはありました。トイレは高速道路や空港で整備が進んでいきました。下水道整備がなされるとともに、各家庭でも水洗化、洋式便座など汚すことが少なく、とても掃除が簡単になりました。下の汚物も見えず、これが普通となってきたのです。

それでは、学校のトイレ整備がなぜこれほどに遅れたのか、やはり私たちの責任でしょう。私たちが子どもや保護者の声を聞き取れていなかった、申し訳なかったと反省しています。住民の顔が直接見える立場にある私たちです。住民の皆さんの声を聞き、受け止め、把握をし、それを伝える、そして住みやすいまちづくりへとつなげていく、これが私たちの仕事ではないでしょうか。

前回、中島、北川両議員より、学校トイレの質問を受け、執行部はどのように整備を進めようとするのかを尋ねます。

また、体育館、運動施設、そして2期目後半となられる市長の未来を切り開き、目指すまちづくりについてお尋ねをいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

（14番柴山恭子君降壇）

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員。

○14番（柴山恭子君） トイレ整備についてお尋ねをいたします。

小中学校トイレの整備計画があまりに遅すぎると、前回質問がありました。多くの家庭が水洗、洋式便座が普通となり、1日の大半を学校で過ごす子どもたちにとって、初めて使う和式トイレにびっくりしたことでしょう。特に、和式に慣れない1年生は、我慢をして家まで帰ってくるとの話も聞きますし、ズボンには駄目だと教えている家庭もあるようです。そんなことを聞いたことはありますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 小学校の低学年のほうが和式をなかなかしづらいといったこ

とは聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それで、どう思われましたか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 洋式化について、教育委員会も粛々と取り組んでいく必要があるというふうに考えておったところです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 粛々とがとてつもなく遅くなったということですかね。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 前回6月議会で、議員のほうの質問で、県下で下から2番目といったような状況がありましたけども、遅れた理由ということで申し上げてよろしければ、合併以降、学校の耐震化でありますとか、太陽光発電、普通教室の空調設備などをまず行っていきました。

平成29年7月の九州北部豪雨災害以降につきましては、ちょうど杷木地区の小学校の統廃合の話もありまして、松末小学校であったり、久喜宮小学校の仮設の校舎の建設でありますとか、実際に被害を受けました比良松中学校の体育館、技術室の復旧、災害対応、そしてその後、実際に新たな杷木小学校を開校させるといったようなもの、また令和元年度から令和2年度、コロナの時期にかけましてはコロナ対応でありますとか、学校のほうに子ども一人一人のタブレットを支給させると、1人1台の体制を実現していくといったもの、また現在におきましては、令和4年度からの事業になりますけども、児童数の急増に対応しまして、立石小学校のほうが増築・改修事業に取り組んでいるといったような、こういったトイレの洋式化よりも優先度、あるいは緊急度が高いというものの判断をして実施をしてきたものでございます。

令和5年度になってようやく、このトイレの洋式化事業に着手ができたといった状況でございますので、この辺のことにつきましては御理解を頂きたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 御理解はするんですが、例えば家庭では何よりも先にトイレの改修をしました。これはお母さん方も家庭のみんなも、何よりも増してトイレの改修をすることで、非常に生活の質が上がると思われたからだろうと思っております。

教育現場はいろんなことがあって大変だったでしょうけれど、やはりその辺りのことをしっかりと考えておくべきだったと思っております。部長は知っちゃうかな。昔、トイレは男女兼用でした。覚えとる、どげなトイレやったか。私が覚えとるだけ。でも、きっと部長も、昔は男女兼用のトイレやったと思うけど。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） すみません。朝倉市、旧甘木市がどうだったか分かりません

が、私、ちょっと県外出身なもんですから、私の小学校のときは、もう既に新しい校舎になっていまして、男女別でございました。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） じゃあ、旧甘木市を教えましょう。昔、トイレは大きい部屋を中心に、すのこのような板が敷いてありました。右側が男子トイレ、左側が女子トイレの個室でありました。誰も知りませんか、私だけが知つとること。副市長、知らん。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 天井のほうが開いていたようなトイレは記憶しておりますが、今のお話しになったようなトイレはちょっと記憶しておりません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 実は私の娘も覚えておりました。昔、トイレは男女兼用やったよね、真ん中にすのこが敷いてあって、右が男子トイレ、左が女子トイレ、そういう話をしながら、私はこの一般質問を書いております。

今、一番思い出すのは、下水道整備は塚本市長の悲願だったということです。甘木活性化のため、企業誘致のため、ぜひともやり遂げなければならないと言ってありました。

そして、下水道が進み、家庭の水洗、洋式便所、ウォシュレットが普通となり、和式トイレ、ぽットン便所は少なくなっていたのです。家庭において、いかにこのトイレの整備が優先事項だったのかがこのことで分かれると思います。

トイレの掃除は大変でした。トイレは水洗でないのなら、1日に1回トイレの掃除をしても、どうしても汚れます。ましてや、ぽットン便所の便器の周りはきれいにしても、その下の落ちていくところはいつまでも汚いような状態でした。主婦はそれを何とか解消しようとして、やはり優先順位は水洗便所の掃除にありました。

そのことを考えますと、2008年、安全で快適な教育環境の整備で、学校トイレの洋式化の遅れに文部省は警鐘を出していたようですが、このときこそ動き出す、そして考えるべきだったと私は考えておりますが、どういうふうに思っておりますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 先ほどもお答えしましたとおり、トイレよりも、まずは児童生徒が授業を受ける状況にないような状況、受けられない状況、そういったものを解消する必要がある、また耐震化につきましては命の問題が関わってきますので、そういったものを優先させたということでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 実は、トイレは命に関わるんです。部長は、御存じない。昔のトイレは、プールでした。落ち込めば、とっぼんと落ち込むようなプールでした。それがしばらく立石小学校も続きました。これは大変だと、何遍もみんなと相談したこともありますので、いろんなことがありましたでしょうが、やっぱりもうちょっと早くトイレは進め

るべきだったと私は思っております。

さっきの話ですよ。右側が男子、左側が女子としたときに、男子は女子のトイレには行きにくかったと思われませんか。ずらっと並んどって、右が男子、左が女子として、男子は、女子のトイレは行きにくかったような気がします、そういうトイレだったらどう思われますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 確かに議員がおっしゃられますとおり、トイレに入るのは非常に躊躇されるだろうなと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 実はこれが次につながるんですよ。今、学校のトイレは個室化しなければというのがあります。男子もです。何とか個室化にして、いろんな多様性のある子どもたちを何とか補佐しようちゅう思いもありますので、今後の整備計画のことを考えても、もしかしたらトイレはそういうふう動くんではないかというような考えもぜひ必要だと思います。

小中学校、今後の整備計画と進捗状況についてお尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 現在の状況でございますけども、まず現時点におきましては、6月議会の回答の状況から変わっておりません。

ただ、今年度につきましては、福田小学校や朝倉東小学校、あるいは立石小学校の洋式化の工事を行ってまいります。

また、当初計画では、令和9年度までに小学校全11校の洋式化、中学校につきましては令和12年度までに洋式化を行うというふうにしておったんですけども、今回の見直しを行いまして、まずは便器のほう、和便器から洋便器のほうに改修をしていくといった簡素化というか、ちょっとやり方を工夫をしまして、令和8年度までに小学校を洋式化、1年前倒し、中学校につきましては令和10年度までにとすることで、2年前倒しでトイレの洋式化をするといった計画に変更をしたところでございます。

また、今年度につきましても、現行の予算を活用しまして、少しでも早く着手をしていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そうなると、私たちが一般質問をしたかいはあったというものです。私たちはもっともっと早くは進めていきたかったけれど、幾ら何を言っても全然前に進まないようでは私たちの一般質問をする意義がございません。どうか今後ともこのようにいろんな質問をしていきますが、それをきっちり受け取っていただきたいと思います。

市長にお尋ねします。さっき部長が言いましたように、学校トイレ整備の優先順位が今のように遅れたのは災害復旧やコロナや、それはいろんなことがあったでしょう。そして、

何よりも子どもたちの生命を安全に保ちたいという思いが非常にあったと、今答弁の中から感じられました。しかし、トイレが今は大変ですというような保護者の声が市長にまで届いていたでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） トイレの話でありますけれども、個別の、個々の子どもを持った親御さんの年代からは、私の耳には入っておりました。個人的な部分が多いですけれども、聞いていたということです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 市長、教育に市長はいつも言われますよね。あれもしたい、これもしたいと思うけど、お金がない。お金がないと何にもできんちゅうのを市長と会うたんびに、市長はいろんなところで私に話してくださいます。いろいろなことはありますでしょうが、教育にかける予算を少しでも多くしていただきたいと私は思っております。よろしく願いいたします。

前より私は、立石小学校の女子職員便所が和式2つで、職員数に比べあまりに少ないと、何度も質問をしたはずですが、先生方の体調を非常に心配しました。休み時間しかトイレにはいけないのに、トイレに行こうと思ったら、トイレはいっぱいというようなことは体調も非常に崩れるでしょう。立石小学校増築工事により、今後は解消されると思います。

しかし、よう今までほったらかしちよって、誰も文句は言わんやったかなと私は思うんですね。よくここまで病気の先生方やいろんなことが出ませんでしたよ。部長、そう思われませんか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 議員がおっしゃられるとおりだと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私は、非常に反省しました。私たち議員も学校訪問をし、現状を把握し、もっと積極的に動くべきでした。ここまで言われて、やっとなトイレ、トイレ、トイレとは言っていますが、もっと早く私たちも動いて、もっと早く皆様方にいろんなことを報告すべきだと反省しています。

私は、日本の文化はトイレの神様に恥じないよという言葉が好きです。ぴかぴかに、はだしで歩けるようなトイレというのを昔から言われておりました。このような教育が行われることを願い、そして一日も早い整備をお願いしたいと思います。今度のように小学校は1年前倒し、中学校は2年前倒しという答弁を受けました。とてもありがたいと思っておりますが、できれば、もっと早くなれば、もっと早く進めていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、議員が申されましたトイレにつきましては、実は私もトイ

レについては非常に興味がある一人だと思っておりました。学校におきましても、小中学校には私は抜き打ちで、ぽっと1人で行って、いろいろな学校の中を見させていただくのが常でございます。

そして、職員トイレや子どもたちのトイレも、今まで行かせていただいていた。

しかし、私を見る限り、そういったものが優先順位として高くなかったのではないかなというふうに自身も反省すべき点はあったと思っております。今回の洋式トイレにつきましては、早急に市長から指示を受けましたので、対応させていただきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どうぞよろしく願いいたします。私たちも全力で頑張っていきますので、皆さん方もよろしく願いいたします。

次に、体育館について、三井中央高校では熱中症予防のために、久留米アリーナで5月に体育祭が行われました。今後、しっかりとした体育館が必要になるのかと考えさせられます。夏の暑さはますます激しさを増してくる中、学校行事や社会体育活動において熱中症になるリスクは高いでしょう。

また、体育館は避難所としても指定され、小中学校体育館及び社会体育施設など、既存の施設の空調設備についての考え方について尋ねます。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 体育館についての空調設備にということでございます。

既存の施設につきましては、空調設備を設置することを前提として建設をされていないということから、断熱性の確保がない体育館に空調だけを設置した場合、過大な能力の空調機が必要となります。それに伴い、光熱費も課題となり、かつ効率的、あるいは効果的な運用ができないといった状況でございます。

このため、空調設備と併せて、断熱性確保のための大規模な工事というものをしないと、効果がないということになります。2025年4月からは省エネ基準適合が義務化されまして、新たな施設を建設する際にはそのような設備が必要になってくるというふうに考えられますけれども、既存の施設につきましては、今後大規模な施設の改修を実施するといった場合に対応を考えていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 立石小学校は、児童生徒どんどんどんどん増え、にっちもさっちもいなくなっていて、まだかまだかまだかという、やっこさの増築工事です。そうなれば、体育館整備はできないと同じようなことではないでしょうか。体育館が新しく建つとか、断熱を何とかするというようなことは果たしてできますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 立石小学校につきましては、現在、今年度の計画としまして

は体育館のほう、LED照明の工事であったり、雨漏り対策の工事というのを予定はしておりますけども、現時点では空調設備を入れるといった予定はございません。

ただ、体育館の屋根につきましては、断熱対策としまして屋根鋼板の裏貼り、ポリエチレンフォームの設置でありますとか、屋根全面に遮断断熱シートを貼るなどの断熱対策は取っておるといところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 大体温度がどれくらい低くなると考えてありますか、それで。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 申し訳ありません。そこまではちょっと把握できておりません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 今、プールでさえも、気温と、それからプールの水の温度で、プールの授業ができなくなるようなこともあっていますよね。学校では、夏場の体育の授業が、温度が何度で、屋外ではしないとか屋内ではしないとかいうような基準を設けてありますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） プールに限ったことではありませんけども、熱中症や疲労の予防の項目というものの設定をしております、例えば外遊びですとか、保健体育の授業、あるいは部活動につきましては暑さ指数、これが31以上になりますと、激しい運動の禁止、あるいは部活動についても要注意ですよといったこと、あるいはさらに今年度出されておりますけども、暑さ指数が35度以上になりますと、原則運動の中止、あるいは部活動も中止するといった内容を市の教育委員会のほうから各学校のほうにも通知をしております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 具体的に指数30ちゅうのは、どういうことを言うんですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 私も詳しくは分かりませんが、計算式まではちょっと把握していませんけども、気温と湿度と輻射熱を何か計算して出すというようなことで聞いておまして、これは各学校のほうで観測をしているというふうに聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） じゃあ、それは学校できちっと計算して分かるちゅうことですか。大体夏場の間、何日ぐらいが使えなくなりましたか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 暑さ指数を測るといのは各学校でやっておりますけども、具体的に、じゃあ何日それで授業ができなかったとか運動ができなかったというところまでは、把握はしておりません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それは残念です。全くできないんですよとか言うてもらえば、そんなら何とか予算を取って、空調なり大型扇風機なりつけるべきではないですかと言おうと思ったけれど、授業はほとんどできた、夏場の。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 授業に関しましてはできているということで、あと体育館での利用の場合につきましては、例えば小まめに水分を取るであるとか大型扇風機を設置するであるとかといった対策は取っておるというところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 大型扇風機は有効ですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 現時点で取り得る策としては、有効であるというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それでは、今後どの体育館も運動施設も大型扇風機を何とかしようという考えはありますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 大型扇風機が、それを入れれば必ず大丈夫というわけではございませんけども、少なくとも各学校の体育館には設置をしておりますし、社会体育施設のほう、こちらの体育館のほうにも大型の扇風機は導入をしております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 先生方や子どもの反応はどうですか、大型扇風機がつくと、ああ、涼しいちゅう反応は返ってきますか、でも、暑い。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 体育館そのものを冷やすというところまではございませんので、やはり暑いのは一定、ある程度は仕方ないのかなというところですね。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 指数も出してありながら、子どもの体にも気をつけながら、大型扇風機を考えてあるということですから、それはそれでよくやってある。私は何にもないのかとも思っていましたので、大型扇風機にしる何にしる、やはりこういうことを何かちよっとでもしてやろうとか、そういうことがあればよかったなと思います。

でも、昔、教室に空調がつくやら思っていましたか。教室にエアコンをつけるやらちゅうのも思ってもいみませんでしたけど、今、教室にエアコンは全部ついてますよね。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 平成29年までに普通教室につきましては100%設置ができて

おります。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そこですよ。そこ、だけん、頑張らんにやいかん。空調も体育館の断熱化も何とかして、誰かに声をかけながら、この暑さやけん、国も何とか考えよう。この暑さで、子どもたちが体育館の中で熱中症になったりしないように、それかちゅうて各自治体、久留米アリーナのような、空調がばっちり効いたような体育館は建てられんでしょう。

それならば、今の体育館に耐熱をして、壁を張り直して、そういうことをすれば、もしかしたら空調は効くようになるかもしれませんので、今は教育委員会としては何となく大型扇風機で、何でもこういうことをすれば何とかなるだろうかという思いの中で動いてほしいと思いますが、いろいろほかにも考えて。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） まずは、児童生徒の安全・安心というのがまず第一でございますので、そういったものを考慮しながら対応していきたいと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしく願いいたします。

次に、運動施設についてお尋ねをいたします。

実は先日、サン・ポートのグラウンドで練習している野球チームや社会人サッカーチームの見学に行き、1時間ほど参加させていただきました。日本に来てサッカーの練習ができず、久々に体を動かす喜びで、汗と笑顔、やはり運動が好きな子にとっては大事なことのように。たったこの1時間ではありましたが、とてもありがたかったです。

でも、ちょっと邪魔になりそうで、ちょっと毎回行くのは、遠慮はさせられましたが、運動の喜びや運動をすることの子どもたちに対するよさちゅうのがつくづくこのときは感じました。

子どもの野球チームが、ここには杷木や朝倉や甘木から集まってきておりました。父兄の送迎で、駐車場はいっぱいでした。筑前町まで、杷木の上のほうから行くのは父兄の皆さんも大変でしょう。

でも、みんな野球がやりたい一心で、筑前町まで来ておりました。サン・ポート改修工事のため、このグラウンドが閉鎖されると聞きます。ここのグラウンドは夜間照明もあり、社会人のサッカーチームにも仕事帰りに練習ができると喜んでおりました。どうして練習ができなくなるかが、もしかして分かりますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） サン・ポートのほうに確認をしましたところ、建替工事がございます。それによりまして、今のグラウンドにつきましては今年度末までが利用できるということで、その後は工事のほうに入るといってございます。

また、令和14年度以降、新施設が稼働後については、新たにというか、グラウンドのほうの利用が再開できるというようなことで聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どんな利用か、あそこに別に何か建つわけでもなし、なぜあそこが利用できないのかがちょっと分からない。あそこに何か建物が建つとか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 議員がおっしゃられますグラウンドにつきましては、資材置場になるというようなことで聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） もしかして何か事務的な理由でできないのであれば、私たちの中でできるかとかちょっと思いましたので質問をさせていただきました。

資材置場だけなら、余計資材置場があるのかな。まあ、いい。しょうがない。資材置場ち、調べてきたんでしょ。はい、すみません。

私は、朝倉には運動施設が少ないちゅう意見を聞きます。利用者の意見はどれほど皆様に届いているかは分かりませんが、屋外や屋内施設の利用状況についての把握がどれほどできているのかを尋ねます。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 屋外体育施設、多くを所管しております教育部のほうで答えをさせていただきます。

文化・生涯学習課のほうが所管しておりますのは、列举をさせていただきますと、甘木球場、甘木テニスコート、甘木グラウンドゴルフ場、安川体育センター、朝倉球場、朝倉テニスコート、杷木球場、杷木テニスコートなどがございます。これらの屋外体育施設では、一般利用に加え、スポーツ少年団活動が盛んに行われております。

また、文化・生涯学習課が所管します施設の利用促進のため、近隣の、教育課所管であります学校の施設、これも開放をして、充実した利用を行うように進めておるところでございます。こういった施設も最大限利用していきたいというふうに考えております。

また、利用状況ということでございますけども、代表しまして朝倉球場のほうの利用の状況だけちょっとお伝えをさせていただきますけども、年間利用可能な日数が332日、これに対しまして193件の申込みがございます。利用率としましては58%となっております。土日以外で、水曜日、木曜日の申込みというのが多いところがございますけども、火曜日、あるいは金曜日というものにつきましては、年間で、まだ4日と9日といった申込み状況でございます。また利用には余裕があるというふうに考えております。

まずは、教育委員会のほうに利用について御相談いただけたらというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君）　そういうふうにしちつとした対応ができれば、運動をする人が教育委員会なりに電話をして、何月何日が空いていますか、何時からが空いていますかというような利用状況を即座にすることができれば、その時点で練習を組むことができると思うんですよ。みんなの声を積極的にどう聞こうとしていますか。いつが空いとるかとか、どうなんですかとかいう問合せを積極的にどう聞こうとしていますか。

○議長（小島清人君）　教育部長。

○教育部長（隈部敏明君）　練習場所が見つからないといった声そのものにつきましては、教育委員会のほうには届いていないといった状況ではございますけども、競技が利用可能な施設、競技ができるような施設、御案内するといったことはできますので、ただ、利用者同士が重なったりとかいったことでの場合は、利用者相互で調整をしていただくようお願いはしたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君）　14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君）　申込みをする時点で、きちつと何月何日、何時から何時までは空いていますよちゅう情報がチームに入れば、チームはその中で練習ができる、その中で組んでいくことができる、この情報の開示というか、こういうことはえらい大事です。一括して情報を集めて、そこに一括して発信する。そうすれば、もしかしたら市民から朝倉は運動するところが少ないよねとかいうような言葉は聞こえなくなると思います。

私の耳には、どうして朝倉市ちゅうところは運動するところが少ないんじゃろうかちゅうのは始終聞こえてきます。この前の飲み会でも、朝倉市には運動施設がないよねという意見はいっぱい出ておりました。部活動の地域移行によって、練習場の不足ももちろん多くなるでしょう。体育施設の整備は必要と考えます。例えば、甘中の横の多目的広場、駐車場には使わなくなってくるでしょう、庁舎ができれば。水の文化村、朝農跡地の仮設多目的広場など、屋外の一つでも照明をすることができれば、社会人スポーツをする人にとって新しい可能性が出てくると思われますので、どう考えてありますか。

○議長（小島清人君）　教育部長。

○教育部長（隈部敏明君）　施設の申込みを一元化するというふうなふうに捉えさせていたいただきたいと思っておりますけども、現時点では、一部の施設につきましては予約管理システムを使いまして一元化できている施設がございますけども、施設の運営の形態によってどうしてもシステムは入れられないと、窓口で受付をするといった場合もございます。

繰り返しとなります。御相談を受けた時点で、各団体のほうに利用が重なる場合については調整をしていただく、あるいは空いている時間のお知らせをするといったことはなかなか一元化できにくいところもございますが、その都度対応させていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君）　教育部長。

○教育部長（隈部敏明君）　夜間照明施設につきましては、まず照明がある施設について

の場所について列記をさせていただきます。よろしいですか。

新たな夜間照明施設につきましては、周辺的生活環境に与える影響が大きいということもありまして、周辺住民の方に丁寧な説明をいたしまして同意を得る必要があります。

また、周囲が農地でありました場合には、農作物に対する影響といったこともありますので、まずは慎重に対応していく必要があるかというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 多目的広場の周りには、民家はないと思われまして、田んぼもない。何を慎重に慎重にそう考えるのか私は分かりませんが、ちゃんと考えて、どこか1か所ぐらい照明をつけることも考えてください。

1時間ほどアメリカから来た子どもをサッカーの練習に連れていきましたと言いましたよね。あのとき、この子がこう言いました。おばちゃんと言うまい。怒るけん、私。恭子姉ちゃん、どうして日本の運動場には芝が張っていないのと言いました。アメリカでは、サッカー練習場には全て芝が張ってあるそうです。日本では、芝はぜいたくなのですかね。

私は、いつも聞きます。朝倉市では練習場の確保が難しく、筑前町、大刀洗、うきは、八女などにも行くと聞きます。そう言われてみると、うきはの練習場には芝が張ってありました。やはり朝倉市は運動施設に対する考え方が少し遅れているのではないかなと、そのときは思いました。社会人スポーツは仕事帰りですから、さっきの話じゃないけど、照明があるところでないと、できないんですよ。

そうすると、その辺ももうちょっと考えてほしいと思います。前々からよく聞きます。田んぼの周りに照明はできないとか、家の周りには反対があって夜間照明はできないとか、いろいろ聞きますが、できない理由です。できる理由を、ここならできるだろう。私たちもよく聞きますよ。ここの信号機がついたおかげで、うちの柿やらブドウは出来が悪くなったとかいう話をよく聞きます。

でも、それは言うだけで、そげなことを言うたって、子どもたちのためやけ、交通安全のために信号がなければどうするとち、私は言います。何とかして、どうすればできるかを考えてほしいと思いますが。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 甘木公園の多目的グラウンドの夜間照明というふうなところで考えますときに、先ほど教育部長が答弁しましたように、あそこ住宅からは若干遠くになっておりますけども、あそこは住宅環境を重視するような用途地域に位置されておりますので、地域住民の方の御意見というのは十分聞きながら考えていきたいというふうなところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 地域住民の意見を十分に聞いてください。どれほど住民が反対するのか、なぜ反対しなければならないのかを十分聞いて、反論してください。朝倉市の子

どもたちのためですよ。スポーツをする皆さんのためです。そう言いながら、反論しながら、しっかりとした仕事をしていただきたいと思います。

市長に尋ねます。市長は、アビスパ福岡とフレンドリータウン協定を結び、スポーツの楽しさや夢を持つことの大切さを学び、子どもの健やかな成長につなげると、これにも書いてあります。スポーツの関心を高め、生涯にわたる学び、活動の推進は、市長は、誠心誠意、全力で山積する課題に挑戦し、未来を切り開くとありますが、果たして市長は運動施設についてどんなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） マニフェストを紹介していただきまして、ありがとうございます。未来をしょって立つ子どもたちの健全な成長は、何事にも代え難いすばらしいものであるし、すばらしい環境をつくっていくということは、議員御指摘のとおりであるというふうに考えまして、マニフェストに書かせていただきました。アビスパ福岡と協定を結ばせていただきました。

そして、アビスパのチームが持っております選手とかノウハウとか、そういったものを、現在、市内でいかせていただいているということでもあります。こういったことをやりながら、ただいまの質疑を聞いておまして、できない理由を述べるのではなくて、できる方策を探そうじゃないかというようなことは、私は、幹部職員に数年前言ったことがありますし、今もそのとおり考えているということでもあります。

かの上杉鷹山公が言われました「なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」と、こういうことでありまして、今日議論になりましたことにつきまして、しっかりと取り組んでいくように、組織で動いていますので、特に教育委員会組織が頑張っているという私は認識が強うございますので、よく話を聞きながら前に進めていくと、そういったことでよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）はい。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） ありがとうございます。聞きましたね。「なせば成る、なさねば成らぬ何事も」ですよ。この精神でなしてください。1か所でもいいから、何とかしてきちっとしたものを造り上げてほしいと思います。よろしくお願いします。部長、どうぞ。頑張りますと言って。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 今、市長のほうで申し上げましたとおり、できない理由を探すのではなくて、どうやったらできるかということで検討していきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくお願ひいたします。

副市長、べらべらと市長に10を言うたほうがいいですか、1問ずつがいいですか、あと10分しかありませんが。（「べらべら」と呼ぶ者あり）べらべらですね。じゃあ、早口で

べらべらと言います。

市長に問います。「市民と創る朝倉」「誰もが住みたい朝倉」を目指される市長にとって、2期目半ばとなり、これまでの事業について、改めてお尋ねをいたします。

次世代のため、地域づくりにおけるDXを進めるとあります。eスポーツのことだけでなく、そのほかにDXの活用についてどのように考えてありますか。

「夢・希望・笑顔『あさくら』」「子どもから高齢者まで、健康で居心地のいいまちづくり」を目指す、併せて「頑張る地域、住民とともに、住み続けたいまちづくり」を推進しますとあります。誰もが健康で居心地のいいまちづくりのためのコミュニティの整備と活性化なのですか。

整備とは、活性化につながるための各コミュニティの整備と思ってもいいですか。

トイレ整備なども含まれますか、それとも老朽化したコミュニティの新築工事のことですか、お尋ねします。

地域情報の充実は、有料の戸別無線のことですか。そうであれば、有線放送もない地域での情報量はあまり変わっていないと思われま。

市民目線の行政運営とは、具体的にどのようなことですか。

何がどう変わるのでしょうか。

市民の声は、市長に届いているのでしょうか。

目指すまちづくりについて、市長の今後の思いを尋ねます。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 市長にお尋ねではありますけれども、まず私のほうから、事務的に説明をさせていただきます。（「はい」と呼ぶ者あり）はい。

地域づくりにおけるDXにつきましては、まず令和4年度に各コミュニティセンターにWi-Fi環境を整備し、昨年度から各コミュニティセンターを会場として、デジタル活用に関する不安のある高齢者等を対象にスマートフォンの利用活用方法に関する教室や相談会を開催しているところでございます。

今年度からは、eスポーツを活用し、地域間交流や異年齢交流を図るとともに、一部のコミュニティでは体験会も催しているところでございます。

また、コミュニティの整備と活性化、あるいは地域情報網の充実とも重なりますけれども、LINEを活用したコミュニティ内での情報発信、具体的には、コミュニティから区会長や直接住民へ、あるいは区会長から住民への情報発信ができるシステムの導入を検討しております。

併せまして、行政やコミュニティからスマートフォンに情報発信ができるシステムの導入も検討しておるところでございます。

情報伝達の多重化や多様化を図ることで、住民交流が深まりますとともに、防災上も確実かつ迅速に情報を発信できる体制を整えていきたいと考えておるところでございます。

また、コミュニティの活性化が図られますよう、令和4年度に三奈木コミュニティセンターが竣工いたしました。本年度には、安川、そして松末コミュニティの整備を進めておるところでございます。

コミュニティの活性化につきましては、各コミュニティに対する活動助成、交付金を交付しまして、集落支援や地域おこし協力隊も配置し、地域の維持、再生、活性化の支援を行っておるところでございます。

市民目線の行政運営につきましては、第3次総合計画の策定に当たりまして、市民の参加を促進するため、市民が意見を述べる場を設け、検討内容やアンケートの結果を公表し、透明性を確保してきたところでございます。

また、計画の進捗管理を行いまして、毎年まちづくり報告書を公表させていただいております。

また、障がい者団体でありますとか、総合教育会議、各種団体等の意見交換会などを通じまして、直接市民の声を頂いたり、「市長へのはがき」で意見を頂いているところがございます。

事務的な説明を終わらせていただきます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） ただいま総務部長から事務的という形でお答えをさせていただきました。これまで取り組んできたことをマニフェストに沿った形で質問を頂いたということで、それに対しての答弁で、これまで全力でまちづくりに取り組んできたということがあります。

これを踏まえまして、私のほうから、どう考えているかということについてお話をさせていただきたいと思っております。

私は、平成29年の豪雨災害の翌年に市長に就任をさせていただきました。平成30年の4月でございます。とにかく災害復旧に全身全霊で取り組むと、そして復旧を進めていくということ、そして復興したまちづくりをしたいということで、初めの4年間は仕事をさせていただきました。

そして、2期目の令和4年度からは、平成29年の災害から、ようやくそのめどがつきつつあるなというときに、昨年の7月の豪雨災害に遭うことになりました。極めて大きな災害でございました。我々幹部職員、いろんな職員おりますけれども、いろんな立場の職員おりますけれども、総じて極めて頑張ってきたのに、やっと先が見えたのにという落胆をみんなしました。それは意気消沈もいいところというところでありました。被災現場を見て帰ってきました。

そして、だけど、頑張ろうということを私は副市長をはじめ、幹部の職員数人に直接話したのを覚えております。頑張ってやってきました。

そして、いろいろあるけれども、明るく、前向きにやろうじゃないかというようなこと

を災害の翌日に話をしたということでございました。

先ほど議員からマニフェスト等から、今いろんな進捗を頂きましたけれども、着実に、お答えしたとおり、今進みつつあると、成果も出始めているということであるというふうには私は思っております。このことがなかなか市民の皆さん方に伝わっていないと、そしてまた市民の皆さんのいろんな声が聞こえているのかという御指摘でございます。

こういう中にありましたが、コンネアサクラの開設、それから水の文化村の水辺のふれあいゾーンのキャンプ場の開設、ちょっと前になりますけれども、大谷選手から頂いたグローブをみんなで使おうじゃないかということで、野球をやろうぜというようなことをやらせていただいたりしたところであります。

そして、また秋月藩成立400年、これについては、昨年度、今年度、これは朝倉市がこれから浮揚していく絶対に欠かせないチャンスであり、文化的、歴史的な背景を持つこの朝倉市の秋月の歴史は、これからの朝倉市の宝として磨いていかなきゃいけないという強い気持ちがありましたので、職員もそれに一緒になって今頑張らせていただいていると、議会の皆さん方の御理解が頂けていると思っておりますので、非常にありがたく思っている次第でございます。

eスポーツにつきましては、今年、甘木コミュニティで試験的にスタートをさせていただきます。来年度からは、なるべく早く全てのコミュニティで取り組んでいただくようにしまして、そして朝倉市全体の地域コミュニティの活性化と力を維持していただくということが大事でありますので、これにつなげていきたいというふうに思います。

時間がなくなりましたので、ここでやめます。ほかにもいろいろありますけれど、また質問してください。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 副市長、残念ながらべらべらと一緒に言うてもらおうと、私が忘れてしまって、何か言われたことにさえ質問することができなくて非常に困りました。次回、また市長に問うで、一問一問しっかりと質問をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

これをもって終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時20分に開会いたします。

午後3時10分休憩